

# ニッポン ドクター和の 臨終図巻



（1972年）レスリング代表の山本郁栄さんが父親で、姉の美憂さんと妹の聖子さんは世界選手権を制しているというレスリング一家に育った、格闘家の山本KID徳郁さん。自身のインスタグラムでがん公表をされたのは、8月26日のことでした。

「絶対元気になるって、帰ってきたいと強く思っていますので温かいサポートをよろしくお願いします！」と綴った矢先の9月18日、療養先のグアムの病院で旅立ってしまいました。41歳でした。

2年ほど前から胃がん闘病をされていたこと。先月の公表時には、すでに全身にが

## 73 山本KID徳郁



# 闘病を支えた家族愛

ながと宏（ながとお・かずひろ）医学博士。東京医科大学卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫二尾市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」は、関西国際大学客員教授。

ほうが有効であるとされていいます。ただスキルス胃がんだけに限れば、胃透視で胃壁の進展性を診たほうが早期発見できる可能性が高いのではという根強い意見もあります。

しかしアスリートとしてふたんから食生活にも人一倍気を付けていた30代の、これほど強くて元気だった若者が、積極的にがん検診を受けようとは考えなかつたはず。最後の最後まで、絶対に治して元気になる！もう一度リングに立つ！という思いは消えなかったことでしょう。

そうですね。こんなふうに息子に尊敬される父親とは、なんと幸せなことか。アスリート一家には家族愛が強いイメージがありますが、山本家は格別だったようです。

闘病中は、ご家族がしっかりとグアムでサポートされていたことも報道されています。母親の憲子さんを99年に白血病で亡くされていることが、余計に兄弟の絆を強くしていたのかもかもしれません。美憂さんは1秒も離れたくないと言っていたとか。

SNSでは、「KIDはがんに負けた」と呟くファンの人もいるようですが、がんに勝ち負けなど、本当はないのです。人は100%死にます。若いから負け、と他人が判断するのは、御本人にも闘病を支えた家族に對しても、大変失礼なことだと思います。

「オリンピックに出た父親は、自分の中では神。だから俺は神の子（KID）。格闘の神様の子供だから」と言っていた。

姉の美憂さんは、悲しみを乗り越え、30日に弟の魂とともに総合格闘技イベント「RIZI N」のリングに上がります。